

# NJ 素流協 News

平成21年 2月25日 第50号

平成21年 2月25日発行・発行所 ノースジャパン素材流通協同組合 〒020-0024 盛岡市菜園1丁目3-6 (農林会館9階)  
 TEL 019(652)7227 / FAX 019(654)8533 / <http://www.soryukyo.or.jp/index.html>

## 林野庁発表「主要木材の短期需給見通し」 (平成21年第1四半期及び第2四半期)

林野庁は平成二〇年十二月下旬に「主要木材の短期需給見通し(平成21年第1四半期及び第2四半期)」を公表した。

その内容を平成十六年以降の実績を加えながら概要紹介します。

なお、平成二〇年の第3四半期(7~9月)までは実績、平成二〇年第4四半期(10~12月)は見込み、平成二一年第1四半期(1~3月)と第2四半期(4~6月)は見通しの数値となっている。

### 一、国産材(製材用丸太)

国産の製材用丸太の四半期ごとの需要、供給量は、平成十六年以降二五〇~三五〇万立方メートルで推移し、第4四半期が最大で、以降順次減少して第3四半期が最小となるサイクルとなっている。

### (図1)

二十一年第1四半期と第2四半

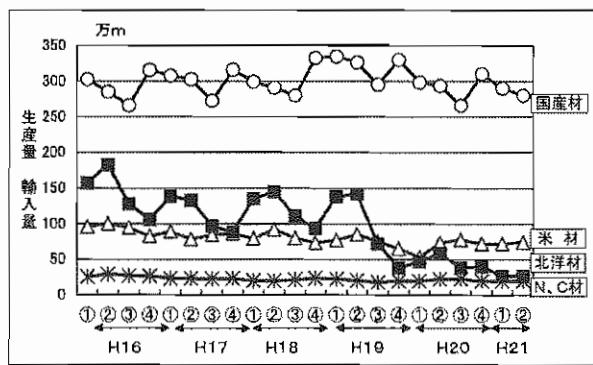


図1 丸太の国内生産量及び輸入量の推移 (N、C材はニュージーランド、チリ材)

期の需要見通しは、二〇年同期より若干減少して、九五~九七%程度になるものとしている。

なお、各年次の需要量は、平成十六年以降十八年までは微増してきて、平成十九年に急激に増大したが、平成二〇年は、反対に急激に減少して、平成十六年と同程度(一、一六七万立方メートル)と

なった。

### 二、米材(丸太、製材品)

四半期毎の丸太輸入量は、平成十六年に約一〇〇万立方メートルであったものが、多少凹凸はあるが漸減してきており、平成二〇年には七〇万立方メートル強となっている。(図1)

二十一年第1四半期、第2四半期の需要は、新築戸数の伸び悩みがあるものの船運賃の下落により需要の回復が見られ、前年同期の五~二五%強の増大になると見通している。

また、製材品の輸入量は、米国の生産体制の縮小から、二〇年同期と同程度となると見通している。

### 三、欧州材(製材品)

四半期毎の輸入量は、平成十九年第4四半期と二〇年第1四半期が通常(七〇~八〇万立方メートル)の約半量まで減少したが、以降円高ユーロ安により輸入量が回復し、二十一年第1四半期、第2四半期は通常並みになると見通している。

なお、年次毎の輸入量は、十八年以降減少し二〇年は、十六〜十八年の3分の2となっている。

四、北洋材(丸太、製材品)

(1)丸太

年次毎の輸入量は、少しずつ減少してきていたが、二〇年になって急激に減少している。

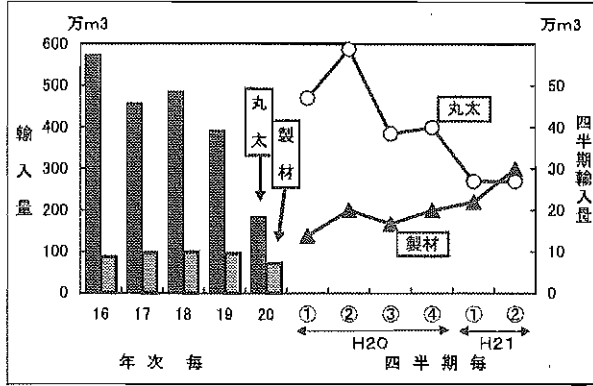


図2 北洋材(丸太、製材品)の輸入量の推移

四半期ごとに見ると、平成十九年第二四半期までは、一〇〇〜一五〇立方メートルの輸入量であったが、以降劇的に減少し、五〇立方メートル以下となっている。特に、二十一年第一四半期、第

二四半期は、ロシアの丸太輸出税率引上げ延期を踏まえても、二七立方メートルと見通している。

(図1、2)

(2)製材品

一方、製材品は、新築戸数の伸び悩みがあるものの、ロシアでの大型製材工場の稼働、国内製材工場の原板加工への移行などから、二十一年第一、第二四半期の輸入量は二〇年同期の一・五倍になると見通している。(図2)

五、ニュージーランド・チリ材

丸太の輸入量は、年次ごとで八〇〜一〇〇立方メートル、四半期ごとで二〇〜三〇立方メートルと、ほぼ一定量となっている。

(図1)

二十一年第一、第二四半期の輸入量は、前期より若干減るものの、二〇立方メートル程度と見通している。

なお、製材品においても、同様の傾向で八〜九立方メートルと見通している。

六、合板

合板需要量は、平成十九年第二四半期までは、四半期で二〇〇立方メートル前後であったものが、以降急激に減少して一五〇立方メートル強となっている。

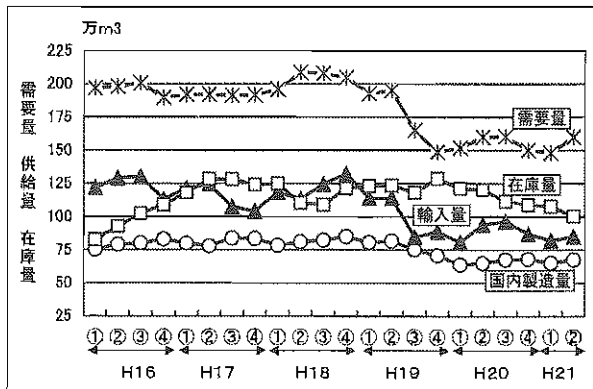


図3 合板需要量等の推移

それに呼応して、輸入合板と国内製造合板の量も減少している。

在庫量は、平成十六年当時二二五立方メートル程度であったものが徐々に減少してきており、二十一年第二四半期には一〇〇立方メートルになると見通している。

なお、二十一年第一、第二四半期における国内製造合板について

は、建築戸数の伸び悩みから、前年同期と同程度になり、需要が六九〜七二立方メートル、供給が六五〜六八立方メートルになると見通している。

なお、輸入合板の輸入量は、前年同期と同程度か、若干減少して八二〜八五立方メートルと見通している。(図3)

七、構造用集成材

国内製造及び輸入の構造用集成材の供給は、ともに平成十六年以降十八年までは増加してきたが、国内製造は平成十九年第二〜三四半期に急激に減少し、以降は二五立方メートル前後で推移している。

また、輸入集成材は、国内製造量より一四半期遅れて急減しており、以降は一立方メートル前後で推移している。

平成二十一年第一、第二四半期は、新設住宅戸数の伸び悩みなどから、国内製造量は二五立方メートル程度、輸入量は一一立方メートル程度で経過すると見通している。

# 伐出用林業機械講座 (2)

## 四、集材用林業機械の発達と普及

我が国の森林は、緩傾斜地から急斜地まで地形条件が様々であり、このような地形条件に対応した車両系と架線系の二つのタイプの集材用林業機械が開発、改良され、利用されてきている。

チェーンソーで伐採し、車両系や架線系の機械で集材する作業体系が昭和三十年代に確立されて以降、昭和四十年代に小規模生産に適した林内作業車が、また、昭和六十年頃から自走式搬器が普及し始めた以外は、昭和年代における我が国の林業機械化の動きは停滞気味であった。

昭和六十三年頃から高性能林業機械と呼ばれる多機能な機械が普及し始め、また、グラップルローダ、グラップルソーといった丸太を取扱うための機械も飛躍的に普及し始めた。

## 五、在来型林業機械

高性能林業機械とは「伐倒と集

材、枝払いと玉切などのように二

つ以上の仕事を一つの工程の中で出来る機械」であり、従来の機械に比べて、作業の効率化、身体への負担の軽減等性能が著しく高い機械である。

現在、以前から使用されてきている高性能林業機械以外の機械は、一括して「在来型林業機械」と呼ばれている。

以下、代表的な在来型林業機械について説明する。

### (1)チェーンソー

今更説明することが不要なほど一般的な林業用機械である。

最初のチェーンソーは、今から百八十年ほど前にドイツで作られたといわれている。

現在の形のチェーンソーは一九二〇年代（大正十年代）にガソリンエンジンで動かし、大量生産されることよって普及し始めたが、初期のものは、重く、長く、二人で扱うように作られた道具であり、

第二次世界大戦中ではアメリカ陸軍が戦線で使用したといわれる。

大戦後、各国で国産化の動きが活発になり、コピー製品が作られ始めたことが世界的に普及するきっかけとなった。

日本では、昭和二九年に北海道を襲った洞爺丸台風の風倒木処理から全国的に普及が始まった。

普及台数は、昭和年代終わり頃には三六万台となったが、平成年代になってからの保有台数は年々減少してきており、平成十九年には二二八千台と昭和六十三年の約

六二%となっている。

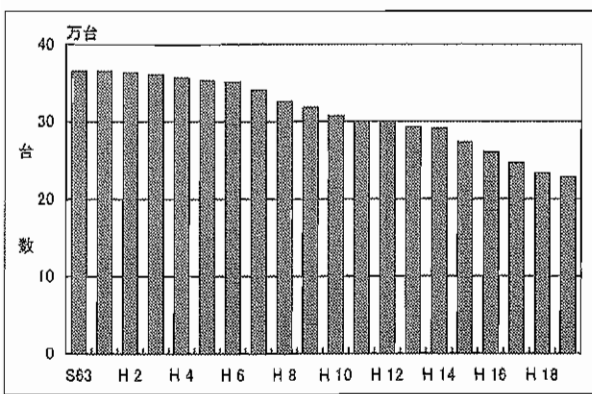
昭和四十年代後半、チェーンソーの過度の使用による白蟻病が問題となり、低振動化と軽量化が進められた。

現在は、更に排気ガスの浄化や生分解性オイルの使用など環境対策も進められている。

機械面での特徴は、各種合金等を使用して軽量化されているほか、傾けても燃料供給が可能なダイヤフラム式気化器が用いられている。

また、安全装置として、キックバック（ソーチェーンが案内板の先端で立木に触れた瞬間にチェーンソーがはねあがる現象）に対するチェーンブレイキやチェーンが切れたときに飛び出さずに絡まるチェーンキャッチの機構がついている。

なお、チェーンソーを使用して伐木造材等の業務を行う者は、伐木方法やチェーンソー、振動障害等に関する知識や実技の特別教育を受けなければならないことになっている。



チェーンソーの保有台数の推移

# お知らせ

二月二十一日、次の方々が東北  
森林管理局での国有林材利用推進  
功労者として表彰されました。

## ☆林野庁長官表彰

(株)昭林

## ☆東北森林管理局長表彰

(株)木島林業、杉本林業(株)

# 一葉 広葉樹 (5)

## ▽環孔材、散孔材、放射孔材

樹木は根から吸収した水分を、葉から蒸散させるが、広葉樹の場合、幹でのその通路が「道管」と呼ばれる組織である。

年輪に見られる道管の配列の仕方によって環孔材や散孔材、放射孔材に区分されるが(図、表1)、区分に客観的な基準は無く、観察者の主観的な判断によっているため、一つの樹種に対する判断が食い違う場合もある。

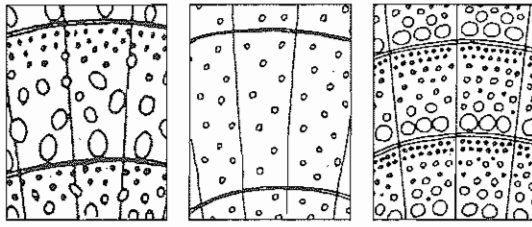


図 導管の配列状況 (左から放射孔材、散孔材、環孔材)

◇環孔材は、径の大きな道管が、年輪に沿って配列しているもので、

表1

環孔材樹種	ケヤキ、コナラ、ミズナラ、クリ、ハリギリ、クヌギ、ヤチダモ、キリ
散孔材樹種	ブナ、ホオノキ、カツラ、シナノキ、ハンノキ、ミズキ、サクラ、カエデ、ミズメ、アカシデ
放射孔材樹種	カシ類、シイ類

表2

	樹の種類	辺材幅	通水部分と通水性	開葉時期	最大光合成速度	形成層活動
環孔材樹種	全て落葉樹	狭い	最も外側の年輪のみで、散孔材より大きい	散孔材より遅い	散孔材より高い	開葉前
散孔材樹種	常緑樹と落葉樹がある	狭いものから広いものまで	外側数年分の年輪で、環孔材より小さい	環孔材より早い	環孔材より低い	

木目ははっきりと見える。◇散孔材は、道管が年輪内に無差別に散在しているもので、年輪は明瞭とまらない。

◇放射孔材は、道管の分布が樹心部から半径方向に放射状に配列されているものである。

環孔材樹種、散孔材樹種には、表のような違いがある。(表2)

材の強度は、散孔材や放射孔材では、一つの年輪内を通じて比重に大きな差が無いことから、年輪幅と材の強度との間に目立った関係はない。

一方、環孔材では、春の成長期初めに年輪の境界に沿って大きな道管が一〜三列できるが、この部分は空隙が多いため強度が弱い。

そのため、環孔材は成長が悪いと年輪幅が狭くなり、空隙部分の割合が大きくなるため、材が軽軟となる。

反対に、成長がよいと年輪幅が広くなり、道管以外の木部繊維部分が多くなり、材は重厚で強度が強くなる。

ミズナラの場合、年輪幅一・二ミリ以上は重厚で強度も大きいので構造成材向き、〇・八〜一・二ミリは工作しやすいのであらゆる用途に向き、〇・八ミリ以下は工作向きとなる。また、〇・四ミリ以下と極端に狭くなると、軽くて弱く、しかももろいので糠目(ぬかめ)と呼ばれている。

## 冗談欄 バレンタインデー

2月14日はバレンタインデー。世界各国で男女の愛の誓いの日として様々な祝い方がなされている。

女性が男性にチョコレートを贈る習慣は日本独特で、アンケート調査によると、独身女性の70%がこの習慣に反対している。でも、「男性から貰うのであれば賛成」というから、女性の身勝手さが伺われる。

さて、ある会社が募集したバレンタインデーにちなんだ川柳から夫婦の関係を眺めると、だめもとで渡したチョコに恋

の花 ↓ 小さいが愛の詰まったチョコに泣き ↓ チョコ縁で五十年の愛続く ↓ 本命も義理も卒業夫婦(めおと)チョコ ↓ 義理チョコは「メタボでしよう」と妻の手に ↓ 好きなチョコ買えばと金を渡す妻  
我が家の老愛妻、バレンタインなんて関係ないと、婆さん連中と外での飲み会へ出かけて行った。  
婆連多飲デーである。  
ああ無情チョコで釣られて濡れ落ち葉

平成21年 1月分の販売実績

- 1 合板用出荷量を先月と比較すると、スギが約2,270m<sup>3</sup>、カラマツが約2,130m<sup>3</sup>、アカマツが約1,610m<sup>3</sup>減少し、全体で約6,020m<sup>3</sup>減少している。また、昨年1月と比較すると、スギが約2,260m<sup>3</sup>、アカマツが約3,230m<sup>3</sup>減少し、カラマツが約1,930m<sup>3</sup>増大して、全体で約3,560m<sup>3</sup>減少している。工場別ではホクヨープライウッドが先月比較で約4,400m<sup>3</sup>、昨年1月比較で約4,300m<sup>3</sup>減少、北日本プライウッドが先月比較で約870m<sup>3</sup>、昨年1月比較で約500m<sup>3</sup>減少している。これら増減の主要原因は、工場側の受入調整によると思われる。また、石巻2工場への出荷量は先月比較で約750m<sup>3</sup>減となっている。なお、これら合板用出荷量のうちシステム販売取扱量は先月より約2,100m<sup>3</sup>増となっている。
- 2 その他（合板用以外）の出荷量は先月より約90m<sup>3</sup>減少し、昨年1月より約200m<sup>3</sup>増大している。
- 3 年間計画量に対する21年1月までの目標出荷量の割合（目標達成率）を83.3%とすると、今月までの出荷状況は合板用、その他（合板用以外）及び計の出荷量は目標を10%強下回る進捗状況となっている。

(m<sup>3</sup>, %)

樹種	長級	販売先				計	累計				
		合板用					計	合板用	その他	計	
		ホクヨープライウッド(株)	北日本プライウッド(株)	セイホク(株)、西北(株)	小計						樹種別割合
スギ	2.0	1,581	1,518	690	3,789	294	5,381	54,560	58.2	4,979	83,178
	4.0	1,178	52	69	1,299			23,639			
	計	2,759	1,569	759	5,087			( 850)			
カラマツ	2.0	1,508	653	190	2,351	83	3,353	26,247	28.2	1,268	39,171
	4.0	197	428	294	919			11,657			
	計	1,705	1,081	484	3,270			( 0)			
アカマツ	2.0	23	580	0	603	0	728	16,436	13.5	13	18,205
	4.0	22	103	0	125			1,756			
	計	45	683	0	728			( 0)			
その他針広葉樹		0	0	0	0	32		0		510	510
合計					[ 0]			[ 1,419]			
		4,509	3,333	1,244	9,085	424	9,510	134,294	100.0	7,254	141,548
目標達成率								72.2		72.5	72.2
計画量								186,000		10,000	196,000

長級2.0には2.1を含む ( ) はシステム販売取扱量(内数) [ ] はストックヤードからの出荷量(内数)

落穂拾い

最近テレビでオバマ大統領の演説を聞いてみると、どうしてわが国の政治家の発言と比べてこんなに差があるのかとつくづく感じちやうのである。もちろん、わが国の政治家の発言内容の程度の低さを言っているのである。

と言っても筆者は、オバマ大統領の英語での演説内容をストリートに理解できるわけではないのであるけれども、日本語へ翻訳されたテロップや米国民のオバマ演説に対する熱烈な反応振りから彼我の間の落差の大きさを肌で感ずるのである。

漢字の読み違いなどあまり問題にはしないが(と言っても、ちよっと読み違いが多すぎるけれども)、落胆することは、政治家が発する言葉に対する感性の貧しさである。長いキャリアを持った政治家が国民に対して話すのに、心を動かす言葉の一つも持っていないことに愕然とするのである。

筆者が話題としている政治家とは特定の人を想定して言ったのであるが、しかしわが国の大半の政治家は同類であると考えるのである。

最大野党の幹部であっても、テレビで見ていると、唇をへの字に曲げて地蔵さんのように無表情で鎮座し、口を開くと表情を全く変えずに無味乾燥な死語に近い政治用語で話すのである。

政治家のあるべき姿、よって立つ信念というのは何なのか、何によって支えられているのか。

政治家は、国民に対して、聴衆に対して、自らの信念に基づく政策と行動について説明し、理解を求めたのではないのか。当然のことその後に続くのは、自らが国民に説明し、理解を得た言葉を実行に移すことが必須事項であるが。政治家の存在意義は、実行力の伴った言葉ではないだろうか。

政治家の政治家たる所以は、選挙民たる国民の支持と理解であり、それを得るための手段は《言葉》のみである。そのことを大半の政治家は忘れていたのである、いな、知らないのかもしれない。

今は亡き阿久悠(作詞家、作家)が言っている。『政治は言葉でないと言うご仁がいたりするが、言葉でないとする、何で説得する。金か、力か。』